

企業保育所の取材を通して見えてきたこと

～保育の市場化にどう対抗すればよいのか？

2013年8月9日

猪熊弘子 (ジャーナリスト・東京都市大学客員准教授)

1. 企業保育所の取材を通して見えてきたこと

(1)「横浜方式」を支える企業保育所

- ・ 横浜方式で待機児童ゼロのまやかし～「1749人」の保留者
- ・ 待機児童がいなくなると施設の運営が難しくなるという制度の矛盾→ゼロにはできない

(2)「営利企業保育所」(チェーン展開型)の実情

- ・ 企業認可保育所の現状～横浜で26%、川崎で30%弱
- ・ 企業保育所はどうやって「儲けて」いるのか？
 - a)待機児童がいればいるほど儲かる仕組み
 - b)「企業のため」の待機児童解消→今は、新制度参入後のための投資

2. 「規制緩和」で子どもの命が危ない！～規制改革会議で話し合われていること

- ①株式会社・NPO 法人の参入拡大→参入率まで明記させる
- ②利用者のニーズに応えた保育サービス拡充→認可外施設への補助拡充
- ③保育の質の評価の飛躍的拡充→第三者評価の義務づけ
- ④保育士数の緊急拡大→保育士資格取得についての改善案、人数を減らす案
- ⑤社会福祉法人の経営実態が分かりやすくなるよう、経営情報の公開
 - ＝実は企業でも子会社の経営情報は明らかになっていないことをどう考えるのか？
- ⑥事業所による保育施設の設置に係る見直し
 - ＝ビルの4階以上に保育所を設置する場合の、外階段の代替施設案

3. 新制度(新システム)と企業保育園はどうなっていくべきか？

- (1)「よりよい制度」が子どもの命を守る
- (2)「イコールフットィング」がもたらすもの～保育新制度導入後に何を守ればいいのか？